



内郷村報の 六大使命

- 一、政黨派を超越して、村力充實主義を標榜す。
- 二、村内公私各機關の活動状況を報導し併せて其協調を計り、總體和協努力の實現を期す。
- 三、本村共済事業の徹底を期す。
- 四、村内の善事美行を表彰し、且之を獎勵す。
- 五、本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

内郷村報

天法人則
從順ナル
ルベシ

一舉數得

農道の完成

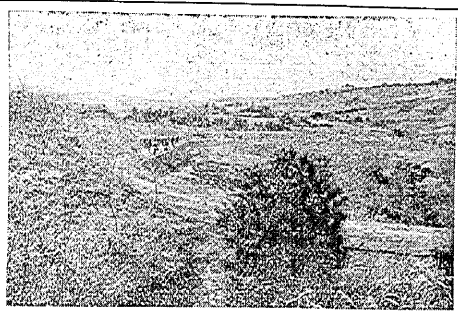
大内民惠



長村田沼

四月二十日、記者は沼田村長より案内をうけて、村議諸君と共に、宮耕地整理組合によつて新設竣工したる、字蛭子より字竹ノ内(通稱田代原)を経て、好間村に通ずる農道を視察した。

千圓、九年度分千五百圓、計六千五百圓、内半額は縣の補助、千七百圓は村の補助、他は大字御臺境、宮、及在住者の寄附金により、一部は請負一部は匡教により延人員二百有余人を役し、道幅約二間半、道程約三十丁、橋梁を架し、岩壁を切り開き、幾曲折かし、所謂



原代田るたし成完道農

代原の中央を貫通したる自動車道路であつて道を挾んで既墾地約二十町歩、居住者二十戸を算し、尙且つ未墾地約三十町歩と稱せられて居る。地味は梨子、葡萄に適し、既墾地には既に之等の果樹が栽培せられ、整頓せる棚をおよぶて、梨花が今將に開かんとしつゝあり、未墾地は既に幾人か開拓に従事しつゝあつ

るが如くに見渡される。同行の佐藤校長が天下の勝狩勝時もかくやと嘆稱の聲を發せられたが、もとよりそれとこれとは、其趣を異にする。雖も常盤地方切つての景勝地といふも、何人も異存はあるまいと思はれた。

以上は之れ、農道を中心とした外觀であるが、一步を進めて、

た。此等の開花期結實期の美觀壯觀を想像して、思はず快哉を叫ぶざるを得なかつた。而して北西には、加井岳、湯ノ岳の靈峰を仰ぎ、南東には廣漠たる丘陵につゞいて、遙か雲際に渺茫たる太平洋を望み、眼下瑞寶寺の森は、深山幽谷を思はしめ、町田高坂の兩炭坑の殷賑は手にと

經は、上述せる未墾地三十町歩は、優に數十の戸口を收容せらるべく、從來好間を経て平驛より輸出せられた當地の果物は、逆轉して好間方面のそれ等と共に、十數丁を距つる驛驛より搬出せらるゝ事となるべく、又一面從來其始末に困つて居つた、磐城炭礦住宅の糞尿は、容易に此新開地の肥料に供せらるべく、世に一舉兩得といふ事があるが、我農道の完成は實に一舉數得、其効益の尠少なからざる、亦屢述を要さなぬ次第である。

然り而して記者は年來力充實主義を提唱して居るが、國力の充實は全國の市町村力の充實の總和である事は勿論であつて、市町村力の充實は、其市町村民の有する能力を刺す處なく發揮して、其市町村の有する土地を、之亦餘す處なく開拓利用する事である。此見地からしても、我農道の完成は、吾人の國策にも合致する次第で、大に意を強うするに足るのである。尙我内郷村は、磐城によつて地下の利源開發は十分に行はれつゝあるが、地上に在りては、大字御厩の八十餘町歩の共有地をはじめ、各地に放棄されてある土地は、決して少くないと思ふ。希くは我村民諸君は、之に大に鑑みて、吾人の所謂村力充實主義を、尙此上にも實現せられん事を、切望して止まない次第である。

函館火災義捐金報告

第三方面一六、九五錢 二四八八。町田方面三三、二〇錢 三〇九人。高坂方面 二四、六六錢 四四三人。綴方面三〇、〇〇錢 三一〇人。平方面 四、四五錢 五五人。合計一〇八、二六錢 一三六五人。職員一同九八、〇〇以上總計金貳百六圓貳拾六錢を函館市役所へ送附いたしましたから御諒承下さい。奮つて此舉に賛同せられた諸子の精神と之が募集の任にあられた諸君の勞を感謝いたします。 磐城炭礦礦業所 濱崎善三郎 昭和九年四月三十日

の奉仕ははじめ、一家萬歳の處理を托したのであつたが、終始よく其職責を全うし、我等をして意安んじて、今日あるを得さして呉れてゐるのであります。其功勞に

こゝに掲げた御神號は、私の崇敬する黒井大將閣下に特に揮毫していただいたものであります。又粗末ではあるが、この壹對の火鉢は、われ等兄弟一同が誠意を表する記

私意のある處を酌んで、常に之を遵奉し、永く之を使用せられん事を願ひました。

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社説は子孫に對する遺言を兼ねるものなり。

本紙定価一冊五錢 一年五圓 半年三圓 三ヶ月一圓五角 一月五角 發行所 内郷村報社 印刷所 磐城炭礦礦業所 濱崎善三郎 印刷

內郷村方面事業助成會

內郷村共濟會は昭和五年創立以來、五年、一般村民各位の協賛により、所期の目的を達し、相當の成績を挙げ、昨年度からは縣補助金も下附になつた様な次第で關係者一同の感謝しつゝある處であるが、昨年十一月本縣に於ては、全國各府縣に倣ひ、共濟委員を方面委員と改稱し、之が助成事業の團體を、助成會と變更する方針になつたのを以て、本村に於ても其に則り、共濟會を助成會と改め改訂を行ひ、四月二十日に開催せられたる村會に、休憩時間を利用して沼田村長及大内常務委員が村議諸氏の意向をたつねたるに、何れも之を諒として、評議員たるを快諾せられたるを以て、不日各區長諸氏の賛同を乞ひ、それ活動を開始する事となつた。同時に從來囑託してあつた役員は一先解任して改めて委嘱する事になり、別に通牒を發せず、本紙のこの報告を以て之に代ふる事とした。而して其會則の全文は左の通りである。

內郷村方面事業助成會規定

- 第一條 本會ハ内郷村方面事業助成會ト稱ス
- 第二條 本會ノ事務所ヲ内郷村役場ニ置ク
- 第三條 本會ハ内郷村方面委員ノ左ノ事業ヲ助成スルヲ以テ目的トス
- 一、各種社會事業ノ施設
- 二、救護法ニヨル能ハザルモノノ生活扶助醫療助産生業扶助埋葬等ニ關スル事項
- 三、社會事業ニ關スル調査研究視察講演ニ關スル事項
- 四、生活改善ニ關スル事項
- 五、各種社會事業團體ノ交渉協調ニ關スル事項
- 六、其他方面委員ノ活動ヲ助成スルニ必要ト認ムル事項
- 第四條 本會ハ會員組織トシテ一年白米一升以上ヲ納入スルモノヲ會員トス
- 第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置キ會長ハ本村長他ハ會長之ヲ推薦ス
- 會長一名 副會長二名 評議員三十名 理事十五名 支部長九名 支部委員 若干名

第六條 會長ハ本會ヲ代表シ會務一切ヲ統理シ各種會議ノ議長トナル

第七條 本會ノ最高諮問機關トシテ顧問若干名ヲ置キ會長之ヲ推薦ス

第八條 本會ノ事業ヲ贊助スル有力家ヲ賛助員トシ會長之ヲ推薦ス

第九條 本會ノ總會ハ毎年四月之ヲ開キ前年度中ノ事務及會計ニ關スル報告ヲナシ其他重要ナル事項ヲ協議ス 各種役員會ハ必要ニ應ジテ隨時之ヲ開ク

第十條 本會ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始まり翌年三月三十一日ニ終ル

第十一條 本會ノ經費ハ左ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

一、會費 二、補助金 三、寄附金 四、其他 第十二條 本會則ハ總會ノ決議ヲ經ルニ非ザレバ變更スルコトヲ得ズ

滿洲駐在兵慰問金會計報告

一 收入金五拾四圓參拾九錢也

金貳拾圓參拾五錢 內郷尋高小學校職員兒童一同

內 金拾五圓七錢 同 第三小學校 同

金拾四圓參拾參錢 同 第二小學校 同

金壹圓參拾參錢 同 第一小學校 同

金壹圓參拾壹錢 內郷家政女學校 同

一支出金五拾四圓四拾錢也

內譯 金五拾貳圓八拾錢 駐在兵八名へ送金

金壹圓六拾錢 送金郵稅

(贈呈氏名) 鈴木吉之助 前田茂 岡田藤三 海藤正武 橋本光義 田中力 川島實 伊藤哲郎

方面委員取扱事項

昭和九年四月分

生活扶助、法令による者一八、然らざる者三五。保健治療、法令による者五、然らざる者五。兒童保護、法令による者三二。相談指導二五。戶籍整理一四。職業其他紹介二五。教化七。其他四。計一七〇。

第一種所帶數五七、人口一八八。第二種所帶數、一三七、人口五五〇。

學級増加

本村教育上の一大問題として一般から注目されておつた學級増加問題も漸く解決し、新學期より高坂尋常高等校三、第二校五、第三校五、併せ十三學級を増加することとなり、左の通り教員任命を見た。

內郷信用組合

同組合では四月十五日淺野館に於て二十周年紀念式を挙げ、山崎理事司式者となり、功勞者の表彰を行ひ、有益な講演があつた。

◎本紙贊助金寄附芳名

金參圓 內郷 舟田 義孝

金壹圓 福島 湯川 廣

金壹圓 小島 里活

金壹圓 二本松 穂積 豊松

教育制度改革概論

矢野 恒太序 大内民惠著

燃料協會講演會

社団法人燃料協會第十一宮、高坂、綴の三社何れも回大會は、五月四日、常...

我國教育學界の權威

前京大總長小西重直博士

吾を寄せて曰く、多年ノ御體験ト實地ノ御試驗ニ基キ眞實國ノ大精神ヲ拜味仕リ不思議ニ打タル申候云々。

鮭一本の報謝

これは四月十一日に、記者の恩一つて私を東京迄見送つて下さつた大内民惠

發行所 日本評論社

取次所 內郷村報社

東京橋本三丁目

矢野 恒太 大内 民惠 著
服部 宇之吉
教育制度改革概論
(四六版二一頁 定價五十錢 郵税六錢)

本紙のこの報告を以て之に代ふる事とした。而して其會則の全文は左の通りである。

會長一名 副會長二名 評議員三十名 理事十五名 支部長九名 支部委員 共名

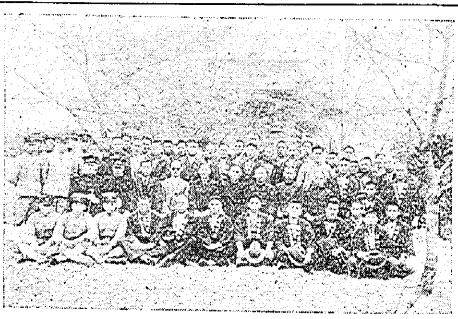
三、寄附金 四、其他 第十二條 本會則ハ總會ノ決議ヲ經ルニ非ザレバ變更スルコトヲ得ズ

我國教育學界の權威 前京大總長小西直直博士
書を寄せて曰く、多年ノ御體験ヲ實地ノ御試練ニ基ク真學實國ノ大精神ヲ拜味仕リ不思感激ニ打テ申候云々。

發行所 日本評論社 東京橋本三丁目 取次所 内郷村報社

燃料協會講演會

社團法人燃料協會第十一回大會は、五月四日から常磐地方に開催せられ、會長男爵坂本俊馬氏以下我邦燃料界の權威を網羅した會員七十余名は、日立鑛山、各炭礦及、磐城セメント工場等を視察し、六日午後一時より淺野翁記念館で大講演會が開かれた。坂本會長の開辭に次いで左記諸氏の蘊蓄を傾けた講演があり、六百の聴衆を傾聴せしめ、渡邊入山採炭事務の閉會の辭あつて夕刻閉會した。



高坂山神會社役員付一部

磐炭に於ける粗惡炭の利用に就て、磐炭技師龜田修造、常磐炭に就いて鐵道大臣官房技師松波秀利、坑内涌水に就て、東大教授工博佐野秀之助、浮沈試験による石炭の性質並に洗炭方法に就て、好問礦業所長工博下野十郎、工業上に於ける石炭の將來、東大教授工博大島義清、

燈籠等の寄進もあつて、段々其莊嚴さを増した。磐炭では今春以來十五名の役員を採用した。其氏名を以て日本赤十字社産院の見學生に選拔せられ此程其課程を終へて歸山、近日中七年會別館に開業の豫定△濱崎弘喜氏、展墓と母堂慰安の爲、家族同伴歸省。

人事消息 △阿部善作氏、磐炭に十八年間精勤をいたした同氏は此程退社、横濱市でガスリンスタンドの製造を開始する豫定の由。

大野君は叔父方の甥に於て、大野君は叔父方から、相接する機会が多、こゝに意氣相投合して交誼を結ぶに至つたのであります。而して私は其時複雑な家庭の羈絆を脱する爲に餘儀なく裸一貫家を出た様な始末で、渡航の如きは、生家からも親戚からも之を仰ぎ難く、其こそ魚感煩悶を極めて居つたのであります。其を知つて然らば其半額づつ、我が支出しやうと引きうづめてくれたのが、即ち我大野君と本宮の故渡邊安治君であつたのであります。而して大野君は奥さん亡くなりたう子さんと連れ立

鮭一本の報謝

部政經科、高坂坑、八木新吉。大倉高商、綴坑、上田直人。巢鴨高商、綴坑、石崎正。日大工科専門部電氣科、機電係、淺川俊雄。熊本高工機科、綴坑、内田敏治。仙臺高工、機電係、鈴木七郎。熊本高工、機電係、谷川信一。岩手醫專、病院舟田義孝。水澤商業、工作課、石川貞三。同、會計課小原平藏。平商業、會計課佐々木通典。平商業、販賣係、増澤勇。以上

これは四月十一日に、記者の恩人川俣郵便局長大野運吉君長男北大教授大野三千右衛門君の結婚式上で述べた祝辭の大要であります。(式は大内式)祝辭を申し上げるに先立つて、當家の御主人大野君と、私との關係を少しく述べさせていただきます。回顧すれば約三十年の昔、私は彼から約一ヶ月間、叔父にあたる福島市故内池三十郎翁方に寄寓した

つて私を東京迄見送つて下さつたのであります。私はお蔭様で渡米も叶へ、豫定の目的も達する事が出来て、今日あるを得るのであります。かうした關係から我々一家は大野君御夫婦の一生の一大恩人として、兄弟を親しみ、何ごな御恩報謝を(恩借の元金又は其後間もなくお返しはしたが)寸時も念頭をさる事がなほありませう。されど總べてに満ち且つ足れる當家に於ては、我々微力の者が何等報ゆる隙がないのであります。それでせめてもこの微衷を致す爲に毎年々末に我々地方の親に對する御禮の慣例としてある鮭一本(店頭に於ける最大なるもの)を贈り、其返禮は受けないこととして歸朝以來今日迄之を繼續して居るのであります。

以上申し上げた通りの關係から、不肖私共は御當家の御繁榮御隆昌を祈ることは、何人にも譲らないのであつて、三千右衛門君が大學を出られ、北大教授となり、叙位の榮譽を得られたに對しても、人一倍喜んで共にお喜びをしておこし、こゝに御列席の内池さんと共に、大に努力したのであります。容易に良縁を得られなかつた處、たゞ、良縁二宮兩氏の御骨折りによつて、桑折町の蒙家氏家利吉様の二女しげ子さんを御得、其最後の決定を私に任せられたのであります。幸ひ其出身校である福島高女には、姪の安田が奉職してあるのを、就いて調査しました處、資性健康成績容姿、家柄等すべて申分なしの事なので、内池さんにも御相談の上御賛同申し上げ、今日結婚式を挙げる運びとなり、今私共が共同式者として感戴するに無上の光榮として感激するに申上り、千鶴萬亀の萬々歳を絶叫するものであります。(以下四面につ、)



大野家の結婚記念

山神祭 本年の山神祭は、四月十六十七兩日に舉行された。

内郷村報

天法人則
美觀壯觀を想像して、思はず快哉を叫ぶざるを得なかつた。而して北西には

然り而して記者は年來居るが、國力の充實は全國の市町村力の充實の總

内郷村報の六大使命

- 一、政黨派を超越して、村力充實主義を標榜す。
- 二、村内公私各機關の活動状況を報導し併せて其協調を計り、總和と總努力の實現を期す。
- 三、本村共済事業の徹底を期す。
- 四、村内の善事美行を表彰し、且之を奨勵す。
- 五、本村を本村出身者及本村関係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

（三面よりつづく）
此の際發ある御兩人に對して敢て教訓がまじきことは申しませんが、御兩親は唯今申上げた様な任侠心、慈悲心に富まり、一方、令名ある郵便局長として、堅實なる主義方針によつて、よく父祖の遺産を保護し利殖し、御先祖三吉郎翁がのこされたさいふ、こゝに立てまはしたる一雙の屏風の大文字（平田先生筆）白樂天の田字（平田先生筆）倉庫裏の書（全文略す）の勸學文の精神を堅く遵奉して、三千さん、善さんの（二男）お二人に、心魂を打ち込んで教育されたのであります。其甲斐あつてお二人共、優秀の成績

金婚

大新

内新民

惠

これは郷里本宅の留守居甲斐根丑太郎老が本年古稀の齡を重むる金婚の祝年にあたり且つ兩隣り及箭向ひの三家で最近それより長男に嫁を迎へたので四月十日に以上四夫婦を招待して祝賀の宴を張つた時の祝辭の大要であります。

人生五十、七十は古來稀なりといふが、わが翁さんは健やかに其七十の齡を重む、殊に本年は幼な拙の婆さんと結婚して五十年、正に金婚の祝年に相密して居る。まことにお目出度い事で、心から御祝を申し上げます。聞く處によろしく翁さんは、明治初年に亡きわが兩親の筆子として入門以來、この六十余年、之れこそ其六十余年間、相變らず一日の如く、我家に入入りして今日に及んだものであり、殊に昭和元年養父物故の後はその温厚にして堅實なる資性に信頼して、我家の留守居として、神佛の奉仕をはじめ、一家萬般の處理を托したのであるが、終始よく其職責を全し、我等を育てて安んじて、今日あるを得させてくれたのであります。其功勞に

を以て最高學府を出られ、今日あるを致したものであります。今日實に今日迄の大野君御夫婦は、全く子供本位の生涯であつたといふべきであります。希くは新郎新婦はこゝに思ひを馳せられてそれれ其本分を盡さるゝは勿論、今後の御生活は御兩親を本位として孝養をつくり、大野家の彌榮を念じていたゞきたいと思ふのであります。而して我田引水のきらひ無きにもあらずであるが、私の處世觀、天法人則に従順なるべし（説明略す）を處世の方針としていたゞきたいと思ふのであります。之には宗教も道徳も將た科學も包容されてあるものと、堅く信じて疑はないのであります云々。下略



妻夫老根斐甲婚金稀古

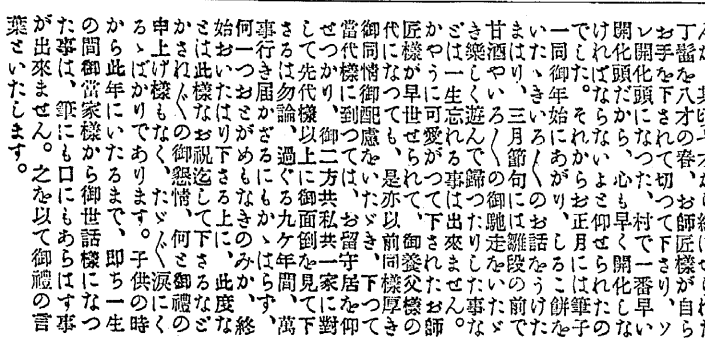
對しても我等は深く感謝の意を表するものであります。翁さん、お二人共、最近結婚された事、衷心から御祝ひ申し上げたいと思ふのであります。翁さん、お二人共、最近結婚された事、衷心から御祝ひ申し上げたいと思ふのであります。翁さん、お二人共、最近結婚された事、衷心から御祝ひ申し上げたいと思ふのであります。

先づ以て皆さんが、最近結婚された事、衷心から御祝ひ申し上げたいと思ふのであります。翁さん、お二人共、最近結婚された事、衷心から御祝ひ申し上げたいと思ふのであります。翁さん、お二人共、最近結婚された事、衷心から御祝ひ申し上げたいと思ふのであります。

先祖代々から我々の今日に到るまで、お世話になりあつて来たもので、まことに深い因縁を有するもの六軒の組合に、やがて其一家の中心なる處の三人の嫁を迎へるの事になり、無任で喜ばしく思つて居る。翁さん、お二人共、最近結婚された事、衷心から御祝ひ申し上げたいと思ふのであります。翁さん、お二人共、最近結婚された事、衷心から御祝ひ申し上げたいと思ふのであります。

私意のある處を酌んで、常に之を遠慮し、永く之を使用せられん事を願ひいたします。

最後に本日祝宴を開催するにあつては、種々幹旋の勞をさらして且つ御列席された皆様に對して厚く御禮を申し上げます。



妻夫木鈴 妻夫田安 妻夫原榮 婚新

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社説は子孫に對する遺言を兼ねるものなり。

本紙發行は昭和九年五月十日